

## 令和8年度 第1回講演会について

市町水道職員等への水道知識の普及を目的とし、講演会を次のとおり実施しました。

- 1 日 時 令和8年6月1日（月）午後2時40分～
- 2 場 所 ホテルアソシア豊橋 5階「ザ ボールルーム」
- 3 講 師 中央大学 社会理工学部 人間総合理工学科  
山村 寛 様
- 4 演 題 『現場力×AI=効果 100 倍 ― 日報解析と業務効率化が  
拓く水道 DX の未来』
- 5 内 容 水道事業を取り巻く課題に対する解決策としてのDXの役割と実装  
戦略について
- 6 聴 講 者 126 名（愛知県、日本水道協会愛知県支部会員ほか）
- 7 開催状況



開会挨拶(当公社理事長)



講師：山村 寛 様



講演状況



講演状況

## 水道緑地部 第1回講演会（講演内容要約）

日時：令和8年6月1日（月）14：40～

場所：アソシア豊橋

講師：中央大学社会理工学部人間総合理工学科 教授 山村 寛 氏

演題：『現場力×AI＝効果100倍 ― 日報解析と業務効率化が拓く  
水道DXの未来』

本会では問題解決における短期・長期の視点から日本の人口減少に伴う上下水道インフラの将来の課題、そしてその解決策としてDXの役割と実装戦略について講演を行った。

### 【講演要旨】

#### 1. 人口減少と水道事業の構造的課題

- ・人口減少およびインフラ老朽化の進行により、水道事業は「拡大」から「縮小再構築」の段階へ移行。
- ・将来的な市場規模の縮小を見据え、長期的視点（40～70年）での課題設計が必要。
- ・研究開発の継続および海外市場の活用による技術力維持が重要。

#### 2. DXの位置付けと本質

- ・DXは目的ではなく、人・組織・データを接続するための手段。
- ・広域連携および官民連携と一体的に推進することで効果を発揮。
- ・異なる主体や情報をつなぐ『コネクション』の構築が価値創出の鍵。

#### 3. 現場知の活用とAIによる高度化

- ・日報等に蓄積された現場の経験知は重要な資産であるが、十分に活用されていない。
- ・AIによるテキスト解析により、トラブル前兆の把握が可能。
- ・熟練者の暗黙知を形式知化し、水道のDNAとして技術継承の高度化を図る必要。

#### 4. DX推進に向けた方針と留意点

- ・オープン化（API・標準化）の推進により、将来拡張性と柔軟性を確保。
- ・導入は小規模から段階的に進めることが重要。
- ・オープン化・DXは技術ではなく方針であり、自治体トップの意思決定が不可欠。
- ・国は標準化を担い、データ活用の主体は自治体である。